

## 第21回「櫻田記念」全日本9人制バレーボール実業団選抜男女優勝大会

(日韓国際親善交流試合)

### 決勝戦評

中部徳洲会病院 (沖縄)	2	$\left\{ \begin{array}{l} 21-16 \\ 14-21 \\ 21-16 \end{array} \right\}$	1	富士通 (兵庫)
--------------	---	---	---	----------

主審 船山 久尚 (新潟)

副審 川田 光治 (群馬)

記録 中山 則子 (東京)

戦評 野坂 嘉和 (滋賀)

決勝戦は順当な勝ち上がりで来た富士通と準決勝で前年度優勝の住友電工をフルセットの接戦を制し初の決勝に勝ち進んだ中部徳洲会病院の対戦となった。

第1セット序盤はサイドアウトの応酬で一進一退の攻防になるが、徳洲会病院が効果的なサーブポイントやブロックアウトのスパイク等で4点差をつける。中盤以降富士通もクイックや時間差攻撃等で追いつこうとするも徳洲会病院は連続得点を許さなかった。そのまま終盤も点差を保ち、第1セットを先取した。

第2セットも中盤まではお互い相譲らずシーソーゲームになる。途中、富士通がサーブ力のある選手とのメンバーチェンジをして連続サーブポイントを上げ、チームのムードを盛り上げ追いすがる徳洲会病院を突き放し、第2セットを富士通が取り返した。

第3セットは前のセットを取った富士通がリズム良く試合を運び得点差を広げるかに思われたが、徳洲会病院もねばり強く富士通に付いて行く形となった。決勝戦らしく白熱した試合となり、両チーム気迫のこもったプレーが随所に見られた。中盤以降、徳洲会病院の連続サーブポイントで富士通を突き放し、リズムに乗った徳洲会病院が第3セットも得て初優勝を飾った。